





特開平11-184203







23

までの時間  $t_5$  ( $= t_1$ ) は短時間である。

【0136】以上説明したように、この方法によれば、安定した伝写状態が得られるとともに、レジストズレも生じ難くなり、結果として高品質なカラーパーティカル画像を得ることが可能となる。しかも、中間伝写ベルト3-6の所定位置に適切に像を転写させることができる。

【0137】 $<$  第5の実施の形態>この第5の実施の形態は請求項5記載の形態に対応している。

【0138】この第5の実施の形態が上記した第4の実施の形態と異なる点は、マークMの検出を開始してからマーク3-1への送信までの時間を  $t_4$ 、驱动ローラ3-1への送信までの時間を  $t_5$  とする。また、中間伝写ベルト3-6の伸びが安定するまでの時間を  $t_5$  としたとき、 $t_4 \leq t_5$  の場合には前記マークMが2回目に検出された時点を基準として潜像の形成を開始

し、 $t_5 \leq t_4$  の場合にはマークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成を開始する点にある。なお、この実施の形態の方法も、前述した画像形成装置を用いていので、この場合の時間  $t_5$  は前述した時間  $t_1$  に等しい、すなはち、 $t_5 = t_1$  である。

【0139】この実施の形態の方法によれば、 $t_4 \leq t_5$  の場合にはマークMが2回目に検出された時点を基準として潜像の形成が開始されるので、潜像の形成が開始される時点では、中間伝写ベルト3-6は少なくともすでに1回転していることとなり、これによって中間伝写ベルト3-6の上記伸びが安定した状態となっている。

【0140】一方、 $t_5 \leq t_4$  の場合には前記マークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成が開始されることとなるが、 $t_5 \leq t_4$  であるが故に、潜像の形成が開始される時点では、中間伝写ベルト3-6の上記伸びがすでに安定した状態となっている。

【0141】したがって、この場合の潜像の形成が開始される時点と同様、安定した伝写状態が得られるとともに、レジストズレも生じ難くなり、結果として高品質なカラーパーティカル画像を得ることが可能となるという効果が得られることに加えて、 $t_5 \leq t_4$  の場合にはマークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成が開始されることとなるので、上記第4の実施の形態が上記した第5の実施の形態と異なる点は、前記マークMの検出を開始してからマークが1回目に検出されるまでの時間を  $t_4$ 、驱动ローラへの送信部Aと前記圧着接部T1との間に、中間伝写ベルト3-6の伸びが安定するまでの時間を  $t_5$  としたとき、 $t_5 \leq t_4$  の場合には請求項6記載の形態に対応している。

【0142】 $<$  第6の実施の形態>この第6の実施の形態は請求項6記載の形態に比べて、絶対的に、より速やかな画像形成が可能となる。

【0143】この実施の形態が上記した第5の実施の形態と異なる点は、前記マークMの検出を開始してからマークが1回目に検出されるまでの時間を  $t_4$ 、驱动ローラへの送信部Aと前記圧着接部T1との間に、中間伝写ベルト3-6の伸びが安定するまでの時間を  $t_5$  としたとき、 $t_5 \leq t_4$  の場合には、中間伝写ベルト3-6のマークMを位置させている。

【0144】この実施の形態が上記した第5の実施の形態と異なる点は、前記マークMが1回目に検出されると同時に、より速やかな画像形成が可能となる。

【0145】この実施の形態が上記した第5の実施の形態と異なる点は、前記マークMの検出を開始してからマークが1回目に検出されるまでの時間を  $t_4$ 、驱动ローラへの送信部Aと前記圧着接部T1との間に、中間伝写ベルト3-6の伸びが安定するまでの時間を  $t_5$  としたとき、 $t_5 \leq t_4$  の場合には、中間伝写ベルト3-6のマークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成を開始する点にある。

【0146】前述した画像形成装置を上のよう構成した場合、この方法では、マークMが、およそ図1に符号Mを示した位置に来るよう中間伝写ベルト3-6を位置させた。

【0147】具体的には、画像形成が終了した後、検出手段4-1でマークMが検出された時点から、驱动ローラ3-1を所定回転数だけ回転させることによって、マークMを、およそ図1に符号Mで示した位置に位置させることができる。

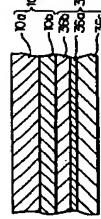
【0148】この実施の形態の方法によれば、前記マークMの検出を開始してからマークMが1回目に検出されるまでの時間  $t_4$ 、驱动ローラ3-1への送信部Aと前記圧着接部T1との間ににおける中間伝写ベルト3-6の伸びが安定するまでの時間を  $t_5$  としたとき、 $t_5 \leq t_4$  の場合には、中間伝写ベルト3-6のマークMが位置させられており、このマークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成が開始される。

【0149】この実施の形態が開始される時点では、中間伝写ベルト3-6の上記伸びがすでに安定した状態となっている。

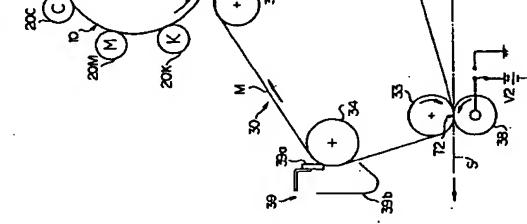
【0150】したがって、この方法によれば、前記第4の実施の形態と同様、安定した伝写状態が得られるとともに、レジストズレも生じ難くなり、結果として高品質なカラーパーティカル画像を得ることが可能となるという効果が得られることに加えて、 $t_5 \leq t_4$  の場合には、中間伝写ベルト3-6のマークMが1回目に検出された時点を基準として潜像の形成が開始されることとなるので、上記第5の実施の形態と比べて、絶対的に、より速やかな画像形成が可能となる。

【0151】以上、本実明の実施の形態について説明したが、本実明は上記の実施の形態に限定されるものではない。

[図2]



[図1]



[図1]

「図1の実施の形態が方法を実施するための画像形成装置の一例を示す模式図。」

「図2」

「図1におけるII-11部分端面図。」

[図2]

「図1におけるII-11部分端面図。」

「図2」

「図1におけるII-11部分端面図。」

「図2」